

公益社団法人日本地球惑星科学連合

平成 28 年度第 5 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 28 年 11 月 25 日(金)
15 時 00 分から 17 時 45 分

2. 開催場所 東京大学理学部 3 号館 3 階 320 号室
(東京都文京区本郷 7-3-1)

3. 出席者 理事数 20 名
出席理事 17 名 (定足数 11 名 会議成立)
出席監事 3 名
オブザーバー 8 名

4. 議長 理事 川幡 穂高

5. 出席役員
理事 川幡 穂高
理事 津田 敏隆
理事 田近 英一
理事 中村 正人
理事 古村 孝志
理事 井出 哲
理事 小口 千明
理事 北 和之
理事 木村 学
理事 倉本 圭
理事 瀧上 豊
理事 中村 昭子
理事 西 弘嗣
理事 浜野 洋三
理事 原田 尚美
理事 日比谷 紀之
理事 道林 克禎
監事 北里 洋
監事 鈴木 善和
監事 氷見山 幸夫

6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションプレジデント 高橋 幸弘
宇宙惑星科学セクションバイスプレジデント 中村 昭子(理事)
大気水圏科学セクションプレジデント 蒲生 俊敬
大気水圏科学セクションバイスプレジデント 杉田 倫明
地球人間圏科学セクションプレジデント 春山 成子
固体地球科学セクションプレジデント 大谷 栄治
固体地球科学セクション幹事 道林 克禎(理事)
地球生命科学セクションプレジデント 遠藤 一佳
学協会長会議 議長 塚本 尚義
広報普及委員会 委員長 田近 英一(理事)
大会準備 TF 末廣 潔

15時00分、理事の定数に足る出席を確認後、会長川幡穂高は理事会が成立することを宣言し、第5回理事会を開始した。インターネット電話 Skype を利用し、遠隔地から参加する倉本圭理事、中村昭子理事、杉田倫明バイスプレジデント、大谷栄治セクションプレジデント、塚本尚義学協会長会議議長、北和之理事(15時30分より接続)が審議に参加できることを確認した。

【前回議事録確認】

第4回理事会議事録について、確認し、了承された。

7. 審議事項

第1号議案 新入会員承認の件

定款第8条2項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

第2号議案 賛助会員入会承認の件

定款第8条2項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

第3号議案 委員会委員の承認の件

環境災害対応委員を資料の通り承認した。

第4号議案 地学教育小委員会の解散の件(西理事)

現在、活動が停止している地学教育小委員会の解散の件について、議論された。小委員会の解散についての規則が無いが、法人運営基本規則の第9章の第17条(委員会の組織)4の「各委員会は理事会の承認を得て、小委員会等の下部組織を設けることができる」を素直に適応することにより、本小委員会は理事会の承認を得て設置されたものであるため、解散においても理事会承認で可能であると判断され、承認された。

8. 報告事項

(1)川幡穂高代表理事職務報告

11月10日に開催されたプログラム委員会の報告があった。今年はAGUとのジョイント Meeting であるため、プログラム委員会開催期間中に「プログラム委員会開催 party」が催され、会長より各プログラム委員に英文の感謝状が手渡された。

今回が初回であったが、プログラム委員からも大変有意義な会であったとの発言もあり、JpGU からの謝意を伝える場として重要なので、来年も継続して開催したい旨が報告された。なお、プログラム委員活動の「見える化」を促進するため、来年度の年会で、プログラム委員の写真パネルを用意することとなり、これも了承された。

10月25日に開催された学協会長会議の報告があった。幹事会メンバーについて、第7回理事会(3月開催)までに前議長(海洋学会、日比谷会長)と現在の議長(地球化学会、塚本会長)とで検討し、年内を目標にまとめることになった旨が報告された。

古村理事より、定款の変更、学協会長会議規則(案)について説明があった。

鈴木監事より、学協会長会議規則(案)について、第4条「学協会長会議は、以下の事項等について、加盟学協会の意見を集約し、理事会へ意見を述べる。」に「諮問に応え」を追記し、「学協会長会議は、以下の事項等について、諮問に応え加盟学協会の意見を集約し、理事会へ意見を述べる。」とすることの提案があり、これが了承された。

(2)田近英一理事(広報担当)職務報告

田近理事より、連合のニューズレターJGL誌にORCIDに関する連載を始めた旨の報告があった。ORCIDに関しては、特に理事の皆様は早めにIDを取得され、活用していただけるように、との説明があった。なお、AGUのジャーナルへの投稿に際しては、ORCID番号を入力することが必須となっており、年会の参加、「Progress in Earth and Planetary Science」への投稿に際しても、ORCID番号の活用の時代が近い将来実現するかもしれないとのコメントがあった。

2016年11月27日開催予定の秋の公開講演会「変動する地球 地震・生態系を探る最新研究」の紹介があった。

(3)中村正人理事(顕彰担当)職務報告

フェロー募集および西田賞候補者募集が始まり、HPに掲載されているとの報告があった。

また、各賞について今後の選出スケジュールが紹介された。

関係機関に配布する募集用のポスターも披露された。

(4)古村孝志理事(総務担当)職務報告

古村理事より、連合の後援・協賛・共催一覧の確認があった。

2016年11月23日に開催される全国フォーラム「2つの非営利法人制度のあり方を考えるフォーラム」に参加し、パネルディスカッションを行ったことが報告された。

免許状更新講習の開設者としての申請について文科省から開設者として指定する申請許可が下

りたことが報告された。

事務局の就業規則について、常勤職員の退職金規定など、12月1日に事務局の体制についての会議を行う。

また来年度の事業計画と事業報告について、作成がすすめられていることが報告され、理事会、各委員会の皆様にも御協力いただきたい旨の説明があった。

(5)北和之理事報告(財務担当)職務報告

平成28年度の決算予想について、北財務委員長から報告があった。収入としてはほぼ確定し、資金からの補填分(国際化推進経費:230万円、外国学協会連携推進特別費用:650万円)を加えることで、支出予想額との差額は1380万円程度の黒字となる。公益法人として中長期的には収支相償を満たす必要があることから、この黒字分の用途については、理事会での御意見を承りたい、とのことである。

浜野理事からの補足として、収益については必ず翌年度までに費消しなければならないわけではなく、中長期的に収支が均衡することが確認できれば良いとのことなので、本組織の健全化のために、黒字分をすぐに使用するのではなく、中長期的に積み立てを行なうようにしていただきたいとの指摘があり、中期的な用途としては、次の提案があった。幕張メッセについては、2020年は東京オリンピックの会場とすることが予定され、JpGU大会で使用出来ない可能性があることから、現在2020年完成予定の横浜市営国際会議場について、実務を担当する会社と交渉中を2013年早々に開始する予定である。その場合、幕張メッセに比べて会場費が格段に高くなると考えられるので、その会場費増加分に充てるため、2016年より2019年の4年間、毎年500万円、計2000万円を積み立てることを提案したい。また2016年のこの積み立て分以外の黒字分については、2016年の外国学協会連携推進特別費用の残額の130万円については、2017年学生旅費補助に使用することとし、残りについては、ジョイントミーティングに参加者のために外国旅費とすることを提案する。

この提案に関しては、津田理事から、中長期的には会場以外にも他にも必要な経費があると思うので、財務委員会で検討の上、最終的な用途を考えて欲しいとの提案があり、財務委員会を中心に中・中期的な財政プランを練ることとなった。また、2020年の横浜での年會に際し、会場予約がせまっているため、そのための500万円については、現段階で積み立てることが了承された。

(6)倉本理事(ジャーナル担当)職務報告

倉本理事より論文投稿・出版状況、JpGU-AGU Joint Meeting 2017、PEPS 特別セッション採択結果報告があった。

また、今年度から開始した Most accessed 賞に加え、2年間で被引用数の多い論文3編以内を表彰対象とする Most cited 賞を H29年度から制定することが報告された。

トムソン・ロイター(現在 Clarivate Analytics 社)に IF を取得するための採録申請を行っており、アメリカ合衆国本社の担当部署のオフィスを11月末に訪問予定であること、PEPS のロゴを作成し、編集長会議において採用されることになったとの紹介があった。

Data paper 投稿受付開始について説明があった。出版料は当面の間、無料とすることが報告され

た。

(7) 浜野洋三理事(大会運営担当)職務報告

2017年大会の準備状況について、浜野理事より報告があった。10月13日にセッション提案が締め切られた後に、共同プログラム委員長によりセッションの採択とコマ数割当が決定され、その後11月10日から12日まで幕張で開催されたジョイントプログラム委員会で、セッション開催スケジュール(プログラム)が確定し、一般にも公開された。2018年1月6日から投稿受付が開始されるので、理事の皆様にも是非周知をお願いしたい。特に今回のセッション数は2016年までの200件以下に比べて提案数265、最終確定数255件と大幅に増加しているので、ぜひ多数の投稿があるように呼びかけて欲しい。

なお、2018年度のプログラム委員長として、次大気水圏科学セクションの樋口篤志先生にお願いし、既に2017年プログラム委員会副委員長として、プログラム委員会に参加していただいていることが報告された。

(8) JpGU2017年大会準備タスクフォース報告

末廣 TF 主査よりジョイント大会に向けての AGU との連携事項が資料の通り報告された。

U-02 Great Debate のパネルディスカッションのテーマは、現在協議中である。

AGU 側基調講演について候補者は交渉中である。

学生に対して AGU はとても力を入れているので学生向けのセミナー企画(キャリアセンター)や学生企画の発表コーナー(学生ポップアップ)等、今後サイエンティストを目指す学生に役立つ情報を提供できる場を作りたい意向があるとの説明があった。

OSPA については JpGU 方式に則り AGU 側参加者が審査参加する。

その他、映像企画としてハイライトになるようなセッションにはビデオオンデマンドや、ライブストリーミング、プロのカメラマンによるスチル撮影等を検討している。

AGU Fall Meeting では引き続き、AGU 側の大会の様子を拝見しながら、2017年ジョイント大会に向けての打合せを進めていきたいとの説明があった。

2017年のジョイント大会に向けて、これまで連合の国際化の方針を考えてきたが、その具現化の為、2017年大会中、もしくは大会後にはAGUとの今後の協力様式の検討(2018年以降の引継ぎ)も踏まえてTFとして報告する考えである旨、説明があった。

また、本件とは直接関係ないが、AGUは若い世代の発展を阻害する「ハラスメント」について、最近厳しい対応を打ち出している。

(9) 教育検討委員会活動報告(西理事より)

免許状更新講習の開設について、内閣府への変更認定申請は古村理事より手続きが行われる。文科省への免許状更新講習の開設にあたっての、講習の認定申請は教育検討委員会の根本泰雄氏から行われることになった旨が報告された。

(10) ダイバーシティ推進委員会活動報告

原田理事より、学協会連絡会の大規模アンケート回答について解析結果の報告があった。

(11)環境災害対応委員会活動報告

2016 年度第 2 回環境災害対応委員会議事録、および 12 月 1 日に開催予定の第 2 回防災学術連携シンポジウムの紹介があった。日本学術協力財団発行の「学術の動向」に掲載された情報共有ページの資料と奥村理事執筆による特集「防災学術連携体の設立と取組」に関する記事の紹介があった。

(12)その他(川幡会長より)

連合の Mission statement について、日本文と英文で作成中であるとの説明があった。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(17 時 45 分)

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席役員は次に記名・押印する。(捺印欄配布時省略)

平成 28 年 11 月 25 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 5 回理事会

出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	津田	敏隆	印
出席理事	田近	英一	印
出席理事	中村	正人	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	井出	哲	印
出席理事	小口	千明	印
出席理事	北	和之	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	倉本	圭	印
出席理事	瀧上	豊	印

出席理事	中村	昭子	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	原田	尚美	印
出席理事	日比谷	紀之	印
出席理事	道林	克禎	印
出席監事	北里	洋	印
出席監事	鈴木	善和	印
出席監事	氷見山	幸夫	印